



県中いわて

令和元年10月1日 / 第248号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／小野寺昭彦（盛岡市立下橋中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話019(622)0572 ●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

中体連・中文連だより

岩手県中体連の活動

岩手県中学校体育連盟
会長 大林 裕明（下小路中）



今年度の県中総体は、関係するたくさんの方々のお力添えをいただき、7月13日～15日を主会期に県内8市1町を会場として155校、7,791人の選手の出場で開催されました。

中央開会式は、花巻市総合体育館で各地区の代表であるバレーボール競技選手団及び役員等合わせて1,000人の参加により行われ、岩手県教育委員会佐藤博教育長様から激励の言葉をいただきました。

また各競技会場では、選手たちが多くの保護者や仲間の声援を受け、日ごろの厳しい練習によって培われた技術や精神力により白熱したプレーが展開されました。

8月には東北大会が各県で開催され、本県では花巻市でバレーボール競技、北上市で剣道競技を開催しました。二つの会場とも競技団体や地元中体連の皆様から献身的な準備と運営をしていただき、成功裡に終了することができました。大会全体としては、団体・個人合わせて25種目で東北チャンピオンに輝くなど近年にない大躍進となりました。

さらに、近畿ブロックで開催された全国大会に出場した本県の選手は、見前南中学校の向井柚稀さんが陸上女子走高跳第3位、北上中学校の菅野航太さんが陸上男子棒高跳第3位と大健闘し、6競技で計9種目の8位以上の入賞という素晴らしい成績を収めました。

今なお、「希望郷いわて国体」のレガシーが確実に受け継がれ、中学生のがんばりが県内を大いに盛り上げてくれることに、大きな感動と頼もしさを感じているところです。

さて、現在学校では、各市町村で策定した「部活動の在り方に関する方針」に沿って取組を進めていることと思います。県中体連といたしましても、県中学校長会や各地区中体連と連携をしながら、望ましい部活動の在り方についての情報共有や検討を進めるとともに、引き続き、たくましく人間性豊かな中学生の育成に取り組んで参ります。

心をひとつに！

岩手県中学校文化連盟
会長 小野寺昭彦（下橋中）



第19回全国中学校総合文化祭富山大会が、8月22日、23日の二日間にわたり富山県民会館を主会場として開催されました。舞台発表の部には、昨年度県総合文化祭において推薦校となった遠野市立遠野東中学校の2、3年生の生徒が本県代表として出演しました。発表は、青笹しし踊りをメインとして、遠野物語をモチーフとした語り部によって伝統芸能の素晴らしさ、引き継いでいくことの大切さを訴えるものでした。最後は全員で遠野市民歌を歌い、私たちがしっかりと伝統を引き継いでいきますという決意を伝えるもので、会場からは賞賛の拍手が送られました。また、展示部門には、本県からも書写条幅5点、絵画10点の力作が出展され、数多くの人々が訪れて鑑賞していました。各地区のご協力に心から感謝を申し上げます。



本県では、今年度で第18回となる岩手県中学校総合文化祭が、11月22日（金）に岩手県民会館を会場として開催されます。今年度はメインテーマを「拓く」とし、県内各地区の中学生が岩手の未来を切り拓く意気込みを交流する場にしていきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

また、各地区でも9月から11月にかけて総合文化祭や各種発表会等として、特色ある活動を展開していただいておりますことに感謝申し上げます。

二度目の全国大会岩手大会が2年後に開催されます。これまで御支援をいただいた全国の皆さんへの感謝と復興に向け力強く前進する岩手の中学生の姿を伝えたいと考えております。これまでの取組を基盤とし沿岸部も内陸部も全ての中学校が心をひとつにして取り組んでいきたいと考えております。

結びに岩手県中学校文化連盟の更なる充実と発展を目指し、皆様方の御協力をいただきながら力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願い致します。

私の学校経営

「凡事徹底」の
積み重ね

和賀地区 阿部伊佐美（和賀西中）



本校に赴任して2年目。校長としても同じ年数となります。昨年度、創立50周年記念式典を地域の方々のご協力で無事に終え、そこで感じたことは、学校に対する地域の関心は高く、協力的であることと、「地域の宝」として生徒（学校）への期待の高さを感じました。しかし、本校は小規模校であり、教科担当も1教科1人の状態であり、教師の力量が生徒へ大きな影響があることを感じました。そこで、先輩校長からアドバイスをいただきながら、次のことに取り組んできました。

今年度の経営のキーワードを「凡事徹底」としました。今年度は市指定の学校公開が予定されており、学校生活において、新たなことに挑むより当たり前のことを徹底して行うことを基本としました。

その一つが相互授業参観。理由は、1教科1教員のため、教科による交流が難しい状況であり、教師自身が他教科の授業を参観する機会を設定することが、授業改善につながり、生徒の学習意欲が高まると考えたからです。ほぼ毎日、校内巡視をしながら授業を見てきたことがきっかけでした。①指導案はなし、②授業の前半か後半を指定する、③職員室に参観可能な授業を提示することを昨年度途中で職員に提案しました。翌日から期間限定ではありますが、相互授業参観が始まり、のべ112回の参観ができました。また、これまで取り組んできた行事や活動も、徹底する事項を洗い出し、確認したら必ず実行することを重要視しました。すると、今まで目的や必要性を漠然ととらえていたことが明白になり再構築するようになりました。教師の意志が変わると自ずと生徒の行動にも少しずつ変化が見られるようになってきました。

「当たり前のことを徹底して行う」ことは時に、多大なエネルギーを要する場合があります。しかし、それが出来るようになったときが本当に身についたときと考え、日々取り組んでいる状況です。

私の学校経営

「生徒の豊かな成長
のために」

宮古地区 箱石順一郎（花輪中）



私たちの毎日の教育活動は、「おはよう」と挨拶の声をかけることから始まって、一日の流れの中で、ほめる・励ます・気遣う……という言葉による交流はもちろん、生徒の心を開き、その心を豊かに育てるために、様々な実践を積み重ねています。以下は、諸先生方の優れた実践から学ばせていただいき、私なりの「実践上の拘り」としているものです。

- 一 学び、体験する中で、ただ知識として終わるのではなく、それをベースとして、そこから『感じる心、感動を持って物事に接していける心豊かな生徒』を育てるべく、私たち教師が農夫のごとく『厳しい現実を見据え、手間暇かけて心と知恵と体の畑を耕し、情熱を灯し続けること』なくして生徒の成長は生まれない。
- 一 行事への取り組みには、必ず困った出来事やトラブル等はつきもの。集団への指導と同時に個別の指導を必要とすることがよく出てくる。その際、『表面の言動（客観的事実）』を『許容』するのではなく、『内面の感情（心理的事実）』を『許容』することをポイントとして接していきたい。
- 一 教育活動を通して、『無いものねだり（欠点）』の指導より、『あるもの探し（良さ）』の実践指導を心がけ、『自信と誇り』を育てていきたい。
- 一 学校の運営は、職員が一人ひとりバラバラでは、生徒の豊かな成長は期待できない。組織的効率的協議を通した『共通理解』のベクトルに向かって、『共通行動』し、『PDCAサイクル』の実践を積み重ねることを大事にしたい。
- 一 行事の改善の対象と方向性は、『1ねらいがなく形式的な行事、2評価改善がなく過去を踏襲する行事、3大切なものは本質であり生徒への愛情という信念』とし、『何のために』『何が課題か』『どのように改善するのか』をもってあたりたい。

今後も、『生徒の豊かな成長』のために、諸先生方の優れた実践から学び続けていきたいと思います。

新任校長の抱負

3つの心と湯本の礼

花巻地区 高橋 透（湯本中）



「土佐絵に似たる 丸き山よ 温泉の歌よ 水の楽よ 自然の美をば 文化に飾る われらの学校 礎固し…」本校の校歌です。学区内に花巻第一・第二工業団地を抱え、県内外から（最近は海外からも）多数の観光客が訪れる花巻温泉、台温泉があります。校歌にある“丸き山”は学校の西方に位置する万寿山。台温泉に登山口がある410m程の低山ですが、春は花の山として知られています。以前は山の展望地から広大な田園が続く湯本地域を一望することが出来たようです（今は草木が繁茂しほとんど見えません）。工業団地や大型温泉施設があるとはいえ、湯本は昔から稲作を中心とする農業が盛んで、かつては中学校の生徒数が500人を超えていた時代があったと聞きます。この湯本に新任校長として赴任して数ヶ月が経ちました。1学期は4月末の体育祭に始まり、修学旅行、中総体、地域へ出向いての総合学習や奉仕活動、宿泊研修等が続き、行事に追われながらも生徒たちは充実した日々を過ごすことができたと感じています。

本校では生徒会が先輩から受け継いできた伝統として、特に大切にしているものが二つあります。一つは湯本中学校『3つの心』です。3つの心とは「相手を思いやる心」と「仲間を信じる心」、そして「まっすぐで素敵な心」。十数年前、当時の生徒会が校則改正の取り組みを提案した際、いじめ問題が出され、その解決のために何が必要か全校で話し合った結果、この3つの心を大切に生活していこうと取り決められたものです。もう一つは、『湯本の礼』です。本校の生徒はさまざまな場面や集会で礼をするとき、相手に敬意を表すため思いを込めて深く礼をするを行っています。1学期始業式の校長挨拶で生徒たちと礼を交わしたとき、私よりも生徒たちの礼が深くしっかりと行っているのを肌で感じました。これは凄いことを自ら実践しているのだなと感心させられました。

早いもので2学期も半ばとなりました。新任という言い訳は次第に通じなくなっていますが、本校校訓「豊かに暢びやかに」のもと、『3つの心』と『湯本の礼』を毎日の活動で実践している生徒たちとともに、私自身も校長として思いをこめ、努めていきたいと気持ちを引き締めながら日々の学校経営にあたっております。

新任校長の抱負

地域と共に歩む

一関地区 伊東 秀敏（大原中）



本校は昭和22年創立、同44年統合、そして今年統合50周年を迎えた学校です。一関市東部の自然豊かな農村風景が広がる中で、純朴な生徒たちと協力的な保護者、地域の皆さんに支えていただきながら学校運営をしています。校舎は旧岩手県立大原商業高等学校を利用したもので、校舎の至る所で以前高校の校舎であったことを感じさせるものがあります。

本校の教育目標は『考え 交わり 鍛え合う』であり、「交わり」や「合う」の言葉が示すように他者や周囲の人々との関わりを最も大切にし、その中で生徒を成長させてきた学校でもあります。例えば、東日本大震災で大きな被害を受けた高田松原への復興植樹事業への参加や20以上の地域自主防災組織すべての地域リーダーの人々と生徒との実効的で具体的な交流と実践、さらには地域諸施設への慰問と奉仕活動、積雪時に行う雪かきボランティア等々。中でも全国的にも有名な『大原水かけ祭り』においては、本校の生徒と職員すべてを祭り当日には参加させ、祭りの直接的な運営や裏方など多くの部分で協力させていただいております。そのためもあってか、生徒の地域に対する誇りと愛着はとても強く、ここに生まれ育ったことに対しての思いは他地域に比しても負けないものであると思っております。

そして今年は統合50周年という大きな区切りを迎え、式典や記念行事を企画していく中で、改めてその大きな地域力というものを目の当たりにしているところです。協賛事業の一つ一つに手や足で実質的な支援をもらい、真摯な姿を見せて頂く中で、今一度原点に立ち返りながら、「地域力を最大限に生かす学校経営」を模索しているというのが現在の状況です。

「生徒を如何にして成長させるか」という永遠のテーマの中に、これからは「如何にして地域力をより一層引き出していくか」ということも重要になっていくのではないかと今改めて思うところです。

各地区校長会活動

NOW

岩手地区校長会



特色ある学校経営を支える 会員相互の連携

工藤 良二（松尾中）

1 はじめに

岩手地区校長会中学校部会は、八幡平市4校、滝沢市6校、雫石町1校、葛巻町3校、岩手町3校、合計17校により構成されており、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を主題に、会員相互の情報交換と親睦を深めながら、地域課題に即した学校経営を推進するための研究に取り組んでいる。

2 本年度の活動方針

- (1) 創造的で開かれた学校経営の改善と充実
- (2) 新学習指導要領の完全実施と教育課題をふまえた研究および実践活動の充実
- (3) 教育環境改善の具体化に係る活動の充実
- (4) 会員および市町校長会相互の理解と連携強化

- (5) 教育関係機関・団体等との一層の連携強化
- (6) 横軸連携を中心とした支援や交流を通じた復興教育の一層の深化と充実

3 本年度の主な活動内容

(1) 地区中学校部会研修

岩手県校長会生徒指導の諸問題に係る調査結果の考察および各中学校における生徒指導上の諸問題に関する情報交換と対応の検討

(2) 市町中学校部会研修

特別な教科道徳への対応、情報モラル指導、キャリア教育の推進、地域を担う人材育成など各市町の特色と課題に沿った研修の推進

(3) 管内三中学校長会による中高連携研修

盛岡および紫波地区と連携した中高研修会による進路情報の共有とキャリア教育の推進

4 おわりに

本地区では、新学習指導要領の完全実施、学校運営協議会の設置と運営、部活動指導の改善と働き方改革の推進等の課題を解決しながら、地域の特性を生かした学校経営を推進するために会員相互の強い連携を基盤とした取り組みを進めている。

久慈地区校長会



久慈地区の子どもたちの 幸せのために

柏館 秀一（夏井中）

1 はじめに

久慈地区校長会中学校部会は、久慈市8校、洋野町4校、野田村1校、普代村1校の合計14校で構成されている。（来年度は種市中と宿戸中が統合し13校）会員間の情報交換を密に行うとともに親睦交流を深めながら、諸課題への取組や研修活動を通して地区の課題に対応できる組織作りを進めている。

2 本年度の活動方針

- (1) 会員相互の連携と交流を密にし、活動の充実と活性化に努める。
- (2) 保護者・地域住民と一体になった特色ある学校づくりの推進に寄与する。
- (3) 研究・研修を充実させ、教職員の育成と教育活動の活性化を図る。

- (4) 関係機関や高等学校との連携・協力を図り、その改善・推進に取り組む。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 年に4回、全員研修会を開催し、情報交換と諸課題についての協議を行う。

- (2) 年に2回、中学校・高等学校校長進路指導研修会を開催し、県立学校の施設見学や学校紹介等の情報交換並びに親睦会を行う。

(3) 研究・研修の充実

研究テーマに基づいて研究を行い、学校課題に対応した実践により、校長の力量を高め各校の人材育成によるチーム力の向上を目指している。

4 おわりに

久慈地区は校長経験の浅い人が多いので、校長同士の横の連携は必須である。併せて地区内6つの県立学校との連携も大切にしている。まずは集まって膝を交えながら情報交換を行い、互いに学び合うことで校長としての力量を高めている。14人の結束を何よりも大切にし、久慈地区の子どもたちの幸せのために活動をしている。

「平成30年度における生徒指導の諸問題に係る調査」の概要

会員の皆様のご協力と生徒指導部地区担当者の皆様、そして、幹事の方々のご尽力により、平成30年度の本調査の『結果と傾向』をまとめることができました。心から感謝申し上げます。

9月10日には第2回地区担当者会議、小・中学校長会生徒指導情報交換会を開催し、概要を報告しました。

以下、調査結果の概要を紹介いたします。

1 各学校の生徒指導の状況

約6割程度の学校は、「問題行動心配なし」と回答している。しかしながら、年度当初の予想に比べ、年度末の結果において、問題行動件数は増えている。この実態を受け、各学校では、未然防止に向けた対策をはじめ、生徒指導の充実を図る必要がある。

2 対教師・対生徒への問題行動

「対教師への問題行動」は、人数・件数とも平成24年度以降では最も少ない人数となっている。

「対生徒への問題行動」も、人数・件数とも前年度より大幅に減少した。しかしながら、暴力行為は137人で、平成24年度以降増加し続けている。

3 怠学等の問題行動

「怠学」「対物」「校則違反」「一般的非行」全てにおいて、近年の中で最も低いか準ずる数値となった。

また、「総数に対する割合」「出現率」は学校規模別に大きな差異はなく、規模に関係なく、問題行動が発生する可能性はある。

4 いじめ問題の状況

平成30年度のいじめの認知件数は、前年度とほぼ同等（80件増）である。1年生でのいじめの認知件数が多く、学年が上がるにつれていじめは減少傾向で、数年間同様の傾向である。いじめの解決率は、およそ9割。学校規模別のいじめ数は、差異があまりない。

また、いじめの様態では、「ひやかしやからかい」は年々増加傾向にある。「暴言による脅しや罵倒」「暴力をふるう」は昨年と比べ減少している。ネットいじめは過去最高となった。

効果的だった活動については、「教委警察児相との連携」が全国との乖離が前年にも増して大きくなっている。

5 不登校の状況

理由の上位は、No.1「神経症的拒否と思われるもの（30%）」がもっとも多い。学年別では、中3（H28年度入学生）が393人と最大である。特に2学年から3学年への増加率が他学年と比較して大きい。

不登校生徒の回復率は、特に昨年度までに比べ、「100日以上200日未満」での回復が顕著にみられ、各校での組織的・継続的な指導の成果である。

6 情報機器の利用

岩手県の携帯電話・スマホの利用によるトラブルの内容では、「LINE等に関わるトラブルが48.4%（H29:52.8%）」、「ネット上の書き込み45.9%（H29:48.4%）」が多くなっているが昨年度と比べてやや減少した。全国と岩手県の結果を比較すると、「架空請求2.5%（+1.2ポイント）」のみが全国の結果を上回った。しかし、昨年度に比べると3.4ポイント減少した。

トラブル防止の取組では、昨年度「生徒会等、生徒によるルール作り」については、全国（28.7%）・岩手県（23.9%）とどちらも低く、さらに岩手県は全国よりも低かった。しかし、今年度は全国28.9%・岩手県37.6%と共に増加し、さらに全国を上回った。加えて8.7ポイント増加した。

また、国の情報によれば情報機器等の持ち込みを可能とする動きもあり、今後の大きな課題となることが想定されることから、情報の共有と校長会としての方向性を見出していく必要がある。

8 児童虐待・クレーマー等

今年度も過去3年間と同様の結果となった。

「モンスターペアレント、クレーマー等で困っている（いた）」については、昨年度から微増傾向で、今年度も12.1%（10.1%）となり増加傾向を示した。

絆
きずな

「東日本大震災」支援・被災地訪問

■全日本中学校長会役員が被災地訪問

令和元年7月29日(月)から7月30日(火)にかけ、全日本中学校長会役員による東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)への訪問がありました。

本県には29日(月)に川越豊彦会長、佐藤浩東日本大震災支援委員会委員長、富士道正尋事務局次長の3名が来県しました。今年度は気仙地区を訪問地区とし、気仙地区校長会の案内のもと学校訪問と意見交換・情報交換が行われました。

北上駅から大船渡市までの車中では昨年度の校長研究大会宮古大会の際に上映されたVTRや前回岩手で開催された東北地区中学校長会研究協議会の際に上映したVTRを使い、小野寺会長、佐藤副会長から現在の状況についての説明を行いました。

大船渡市では、新たに整備された魚市場の展望デッキから大船渡湾の情景を眺めながら、以前の街並みの様子を含め震災当時の状況とその後の復興までの歩みについて気仙地区校長会の松高正俊会長(大船渡市立第一中学校長)から説明をお聞きしました。



展望デッキで説明を聞く様子

その後、大船渡市立赤崎中学校を訪問し、菅生裕之校長から、震災時の大船渡市の状況の説明と当時ご自身が勤務していた陸前高田市立広田中学校(現在の高田東中学校)での取組の紹介があり、質疑の後、新校舎の見学を行いました。

次に、陸前高田市へ移動し、奇跡の一本松を眺めた後、陸前高田市立高田第一中学校において気仙地区校長会の松高会長の司会で意見交換会を開催しました。最初に会場校の熊谷広克校長から順に、気仙地区校長会の各校長から自校の現在の状況と生徒の取組の様子について説明があり、続いて、震災当時高田第一中学校の教務主任を務めていた大船渡市立越喜来中学校の岩崎弘校長が当時の学校の様子や状況についてスライドをもとに説明を行いました。



意見交換会の様子

その後行われた意見交換会では、全日中の会長から「風化という課題についてどのように取り組んでいるのか」という質問があり、3.11集会の紹介など各校の取組や、卒業生や地域の方を招いて学ぶ機会の設定など、当時まだ幼かった子どもたちが中学生になっている現状を踏まえ今の状況にあった工夫をしながら復興や防災の教育を継続していることが報告されました。また、地区校長会からは「心のケアやサポートは依然欠くことができず、その重要性は高く、スクールカウンセラー等の更なる充実や継続が今後必要」との意見が出され、国等への働きかけの協力を全日中にお願しました。

震災から8年経った今の状況を直接見ていただき、被災地区の校長の声に耳を傾けていただく貴重な機会となりました。

【佐藤副会長日記(ラグビー日本代表テストマッチ)】

7月27日(土)、ラグビーワールドカップの日本代表のテストマッチが釜石市の鶴住居復興スタジアムで開催されました。当日、県中学校長会を代表して佐藤玄壺副会長が訪問し、炎天下の中、地元の方々や応援に駆け付けた校長先生方と共に、本戦での日本代表の活躍と震災からの一刻も早い復興を祈念して大きな声で声援を送ってきました。

